

指定管理者施設の管理運営状況評価(モニタリング)結果(平成20年度事業分)

施設名		リニア見学センター				
指定管理者		都留市		所管課	リニア交通課	
指定期間		平成18年4月1日～平成23年3月31日				
施設の使命・役割(運営目標)		より多くの人にリニアモーターカー及び山梨リニア実験線をわかりやすく紹介し、リニア中央新幹線の早期実現に向けて広く普及啓発すること。				
指定管理者が行う業務		施設及び設備器具の維持保全に関する業務 リニアモーターカーに関する情報の収集及び提供に関する業務 その他知事が必要と認める業務				
維持管理業務の評価	指定管理者の自己評価	施設所管課の評価・指導内容				
	築12年が経ち施設・設備の老朽化がすすみ、部品交換等が生じており更なる保守の充実を必要としているが、現在のところ稼働している。また、館内巡視や清掃業務を適正に行うことで来館者の安全確保や気持ちよく見学できるように努めている。		施設の維持・管理については事業報告書や現地確認の結果、適正に管理されている。特に来館者への雨天対策のため独自でアスファルト施工を行うなど努力もしており、今後も創意・工夫を凝らし入館者へのサービス向上に努めていただきたい。			
運営業務の評価	指定管理者の自己評価	施設所管課の評価・指導内容				
	観光地でないため、特に広報活動には力を入れており、大手旅行会社152件、地元関係新規施設12件に対して施設案内を配布した。 見学センターの施設・展示内容についての質問、走行試験情報、周辺観光・交通情報など様々な問い合わせに対応するとともに、リニアの走行試験が行われない日は、サービス向上のためリニアの歴史・構造・現状などを館内放送にて説明した。		事業報告書や現地確認の結果、適正に業務執行されている。今後も創意・工夫を凝らし、入館者の増加やサービス向上のため努力されたい。			
自主事業の評価		指定管理者の自己評価		施設所管課の評価・指導内容		
利用者満足度調査	調査結果	満足度		利用者の声		
		施設の整備状況90% 展示品の充実度80% 超伝導リニア等に理解できたか78% 総合満足度93%		実物車両を展示してほしい 休日に走行試験が見たい リニアに試乗してみたい 展示品が少ない		
	評価	指定管理者の自己評価		施設所管課の評価・指導内容		
利用者数		H19年度実績(人)	H20年度計画(人)	H20年度実績(人)	H21年度目標(人)	
評価		98,538	81,000	102,986	85,000	
利用者数		指定管理者の自己評価		施設所管課の評価・指導内容		
評価		・事業計画の入館者目標を達成できた。 ・来年度も目標がクリアできるようにPR強化を図っていく。 ・リニア試乗会が終了したため、今後入館者数の減少が予想されるが現状を維持するため創意・工夫を凝らした運営を行っていく。		入館者の増加が図られるよう、自らPR強化を図られたい。		
収支の状況	科目	H20年度計画額(円)	H20年度実績額(円)	差額(計画額-実績額)(円)	H21年度計画額(円)	
	収入	利用料金収入	無料施設	無料施設	無料施設	無料施設
		指定管理料	18,071,000	18,071,000	0	18,000,000
		その他収入	104,000	60,940	43,060	0
		計	18,175,000	18,131,940	43,060	18,000,000
支出	18,175,000	18,131,940	43,060	18,000,000		
差し引き(収入-支出)	0	0	0	0		
施設の運営目標の達成状況	指定管理者の自己評価	施設所管課の評価				
	・修繕費が計画より大幅に増えたことに対応するため、節電等に努めて経費を切りつめた。 ・利用者の雨天時の安全確保のため通路にアスファルト施工を実施した。		・必要な修繕を行う中で経費節減に努めていることは評価できる。 ・独自事業として利用者の安全対策に取り組んでいることについても評価でき、今後も利用者サービスに努めてほしい。			
施設の運営目標の達成状況		誘客活動の強化(雑誌、報道機関、観光業者への情報提供等)、サービスの充実(展示品の充実等)により目標を達成した。 技術開発を行っているJR東海が平成19年4月に試乗会を終了する旨を公表したことから、今後入館者数は減少することが予想される。				
総合的な評価及び改善事項		維持管理業務、サービス面、利用状況、利用者満足度等について事業報告書及び現地での確認の結果、適正に業務執行されていると判断できる。また、自主事業(施設改善)を実施するなど利用者へのサービス向上にも努力している。 試乗会の終了や実験線延伸工事などの影響で、走行試験そのものも少なくなり来館者の減少が想定されるが、今後もリニアモーターカーに関する知識の普及と啓発を図り、もって高速交通の発展に寄与する、という当該施設の設置目的や「より多くの人にリニアモーターカー及び山梨リニア実験線を分かりやすく紹介し、リニア中央新幹線の早期実現に向けて広く学ぶ場を提供する」という当該施設の使命・役割の達成に努めること。				